児童青年心理学

科目コード	FD2516・FD2527

単位数	履修方法	配当年次	担当教員
4	R or SR(講義)	1年以上	半澤　利一

※この科目は2022年度まで開講します。レポート提出、スクーリング受講、科目修了試験受験は2022年度まで可能です（履修登録は2021年11月20日まで可能）。
※スクーリングは2019年度まで開講予定です。
※2018年度のスクーリングより、スクーリング単位１単位（８コマ）に変更となります。
※科目コード　FD2516　2017年までのスクーリング受講者（スクーリング単位２単位）
　　FD2527　上記以外の方（スクーリング単位１単位）

科目の概要

■科目の内容

児童青年心理学は、人間の児童期と青年期における発達の姿と特徴、発達にかかわる要因の分析やそのメカニズム等を明らかにすることを中心におく発達心理学の一分野です。児童は狭義には学童期をさしますが、広義には、人間の誕生から、胎児期、新生児期、乳児期、幼児期、学童期までの青年にいたる前の発達期をすべて包含します。そして、学童期に続く青年期にある個人の心理・行動を研究するのが青年心理学です。したがって、児童青年心理学で扱う対象は、児童期・青年期としておきます。

児童期・青年期の示す種々の行動や状態について一般的傾向を把握するばかりでなく、そのような発達をもたらす要因や条件の分析、発達の制御や発達過程を明確にするための理論の構築と検証、そして理論の適用へと児童青年心理学の課題は進展してきています。

それらを解明するためには、単に児童や青年を対象とする心理学だけではなく、心理学の他の領域―家族心理学、教育心理学、臨床心理学、コミュニティ心理学―はもちろんのこと、近接領域の科学―社会学、経済学、生物学、文化人類学―などとも、ますます密接に関係をもつ必要性がでてきています。児童・青年の理解とその行動科学のために、基礎的な知識と理論を学んで欲しいと思います。

■到達目標

１）児童期と青年期について、他の発達時期の相違点を、領域別に説明できる。
２）児童期を学校生活の低学年（１－２年生)、中学年（３－４年生)、高学年（５－６年生）に分け、それぞれの特徴を比較して説明できる。
３）今日の社会における児童期や青年期の特徴や問題点、発達のつまずきや節目について説明できる。
４）アイデンティティの形成プロセスや意義を理解し、４つのステイタスのそれぞれの特徴を比較説明できる。
５）概念形成や思考作用に必須となる言語習得のプロセスについて説明できる。
６）感情が分化して発達し、自己の行動や対人関係に及ぼす影響について説明できる。

■教科書

1）心理科学研究会編『小学生の生活とこころの発達』福村出版、2009年（1・2単位め）

2）菊池武剋監修　沼山博編集『トピックス 思春期・青年期と向き合う人のための心理学』中央法規出版、2004年（3・4単位め）

（最近の教科書変更時期）2007年4月より、2）の教科書が変更になり、2010年4月より、1）の教科書が変更になりました。

（スクーリング時の教科書）上記教科書を参考程度に使用します。

■「卒業までに身につけてほしい力」との関連

心理実践力を身につけるため、とくに、「総合的な人間理解力」、「自己理解に基づくセルフコントロール力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■参考図書

1）心理科学研究会編『心理科学への招待』有斐閣、2004年

2）J. コールマン・L. ヘンドリー著　白井利明ほか訳『青年期の本質』ミネルヴァ書房、2003年

3）浦上昌則・三宅章介・横山明子著『就職活動をはじめる前に読む本』北大路書房、2004年

4）遠藤由美著『青年の心理　ゆれ動く時代を生きる』サイエンス社、2000年

5）斉藤誠一編『青年期の人間関係』培風館、1996年

6）白井利明・都筑学・森陽子著『やさしい青年心理学』有斐閣、2002年

7）白井利明著『大人へのなりかた――青年心理学の視点から』新日本出版社、2003年

8）徳田安俊著『青年心理学入門――発達の課題とその理解』川島書店、1982年

＊生涯発達心理学の教科書・参考文献も「使える」はずです。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

児童期は、他の発達時期に比べて比較的安定した時期と見られているが、小1プロブレム、9・10歳の壁と言われるつまずき、ギャングエイジに代表される友達関係の変質、発達加速現象など、知らなければならないことが多い。また、青年期を理解するために、アイデンティティという概念やキャリア形成という捉え方が特に重要となる。自分の児童期を振り返りながら学び、その後の人生を形づくる青年期の意義についても理解を深めてもらいたい。

■講義内容

※2018年度より、８コマ（スクーリング単位１単位）で開講します。

回数	テーマ	内　容
1	児童期に至るまで	愛着と感情及び言葉の発達
2	児童期とは	児童期の発達的特徴
3	低学年と中学年	各段階の発達的特徴と教育課題
4	高学年と思春期	各段階の発達的特徴と教育課題
5	子どもらしさを捉える	子どもを取り巻く社会とその変化
6	青年期とは	青年期の発達的特徴と教育課題
7	アイデンティティ	アイデンティティとキャリア形成
8	まとめと質疑応答	
9	スクーリング試験	

■講義の進め方

パワーポイントと配付資料を使用し、適宜ビデオ教材も活用して講義を進めます。教科書も参考程度に使用します。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験（100％：持込は自筆ノートのみ可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：５～10時間）

教科書１）の第２部と第３部、教科書２）の第１章と第４章を読んでおいてください。

レポート学習

■在宅学習15のポイント（児童心理学＝教科書１）

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	児童期とは① （教科書１） 第１部第１章）	児童期という発達期の位置づけについて理解する。 **キーワード**：学校文化への参入、授業における学習、発達課題としての勤勉性	児童期は、発達段階の中でどのような特徴を持っているのでしょうか？ 学校生活が始まり、次第に親から離れ、学校を中心とした勉強に打ち込み、また交友関係の広がりもみられ、人格を形成していきます。小学生の生活を理解するために、子どもたちを取り巻く社会環境と自然環境の中で、子どもたちの見せる柔軟さ・潜在力はどんな風に発揮されるのか考えてみましょう。
2	児童期とは② （第１部第２章）	幼児期から児童期・思春期へと連続的な時間の流れの中で経験する非連続な発達の節目について理解する **キーワード**：子どもを取り巻く生態学的環境、客観的・科学的認識、防衛機制	幼児期と青年期の間の児童期は、罹病率が低く、子ども同士で遊ぶことができ、比較的安定した時期と言われてきました。しかし、現実には発達段階の移行期におけるさまざまな問題を乗り越えていかなければなりません。その鍵と言えるのが、子どもの発達が、縦と横の”つながり”の中で見守られ、支えられ、促進されることで充実していくことが必要であることを理解してください。
3	１年生－２年生① （第２部第１章1.1・２）	幼児期から児童期への移行は、発達プロセスとしてどのように特徴づけられるのかについて、説明できるようにする。 **キーワード**：幼児の認知発達段階、自己中心性、前操作期、	小学校入学は、日課、活動スタイルなどがそれまでの就学前の幼稚園・保育所と大きく異なり、小学校入学は、異質な文化システムへの参入といえます。ここでは、移行期の教育上の留意点を知るために、幼児期の発達について理解してください。
4	１年生－２年生② （第２部第１章1.3・４）	「小１プロブレム」と幼保小連携・接続の問題を理解する。 **キーワード**：書きことば、２次的言語の獲得、科学的思考への移行期	幼児期から児童期へ、幼稚園・保育所から小学校への移行期の発達的理解、遊びという活動の捉えなおし、安心できる人間関係づくりが「小１プロブレム」を乗り越えるために大切なことであることを理解し、説明できるようにしてください。
5	１年生－２年生③ （第２部第１章２・３・４）	低学年の学級の荒れへの対策とそこで必要な見方について理解し、適切な関わりができるようにする。児童期の自然に対する認識の変容を理解する。 **キーワード**：７歳の壁、素朴生物学の変化、小１プロブレム、学級集団作り、自己の客観視	小学校低学年の学級の荒れへの対策を考えるとき、原因追求は適切でない場合が少なくありません。どうしたらうまく関係をつなげられることができるか考えることが必要です。小学校と就学前教育、教師と子ども、子ども同士、教師と保護者や地域をつなぐことが、荒れへの対策としてまず重要であることを理解してください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
6	3年生－4年生① （第2部第2章1）	知的好奇心旺盛で、友達仲間同士で世界を広げてゆく活力のあふれる中学年の子どもの特徴を説明できるようになる。 **キーワード**：仲間関係の発達、ギャングエイジ、規範意識	児童期において重要なことは、仲間関係の形成です。仲間関係が本格的に作られるのは、小学4年生以降のことです。こうした他者との関係を築く資質や能力に基づく人格発達の側面を理解してください。
7	3年生－4年生② （第2部第2章2・3）	9、10歳の節が児童期一般に関わる発達過程であると考え、ことば、思考、人格の3つの側面からその特徴を理解する。 **キーワード**：知的リアリズム、視覚的リアリズム、落ちこぼれ、望ましい集団活動に必要な5つの心	9、10歳の節は、聴覚障害児における学力形成上の困難さを示す「9歳の峠」という呼称が起源です。状況依存的な言語に起因する発達上の困難、学力形成を支える思考の問題、つまり現象の背後に潜む過程に分け入る思考の問題、おとなから一定程度自立して自分の頭で考えて行動し、結果について責任を引き受ける、これが児童期の人格形成の課題です。9、10歳の節について、理解を深めてください。
8	5年生－6年生① （第2部第3章1）	児童期の後期に位置する思春期について、理解する。 **キーワード**：第2次性徴、発達加速現象、マージナルマン、青年期の自己意識、自己肯定感、社会的視点取得能力	「まだ子ども」であると同時に、「もう大人」として扱われることも多くなる思春期。一般的には、児童期の後期に位置づけられるとともに、身体的には第2次性徴を迎えて思春期に入っていくという、不安定な移行期です。社会化と個性化の狭間で、展開されるこの時期の子どもの特徴を理解し説明できるようになってください。
9	5年生－6年生② （第2部第3章2）	高学年は思春期の入り口です。児童期から青年期への過度期は、「発達の危機」を抱え込んだ年齢として説明されることもあります。 **キーワード**：形式的操作期、科学的思考の育成	この時期は、人々のまなざしに映った自己像や自分が体験したことを経験したことの振り返り、推量的なメタ認知が可能となり、他者や環境といった「外的な評価に対する敏感性」が反映されやすい時期です。この時期の特徴を自己意識から説明できるようになってください。
10	中学生への移行 （第2部第3章4）	小学6年生にとって、慣れ親しんだ小学校生活から、中学校という新しい学校環境へと移行する際に不安はつきまとう。子どもたちの移行期の意識の変化を理解し、説明できる。 **キーワード**：小学校を卒業すること、中1プロブレム	小学校から中学校への学校移行。中学校への進学に際して「～したい」という具体的な期待感を強く持つと同時に、その裏返しとして「うまくやっていけるか」という不安感も同時に強く感じるでしょう。小学生より中学生の方が、将来への希望を抱かなくなるのは、自分や自分の周囲の世界について客観的、現実的に眺めることができるようになる時期であるから、発達的変化をこのような将来展望から考えてください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
11	子どもらしさを捉える① （第 3 部第 1 章 3 ）	文化と人間発達との関係を探る。 **キーワード**：社会的認識	人間の学習・発達の仕組みには、優れた観察と模倣の能力を持つ子どもと、それをうまく活用してコミュニティの活動に導く年長者とが、互いに影響し合って構造化していくという基本過程が見えてきます。現代の日本社会にこうした基本過程が十分に機能する環境があるか、大人と子供の活動が分離されないことが文化的発達には重要であることを理解してください。
12	子どもらしさを捉える② （第 3 部第 3 章）	社会生活の基礎となる生活リズムの形成過程について説明できるようになる。 **キーワード**：サーカディアンリズム、ノンレム睡眠、レム睡眠、睡眠教育	子どもを取り巻く環境が夜型化してます。子どもの心身の発達の理解において、基礎的で重要な問題の一つは、子どもが生物学的な存在から社会的存在へと質的に変容する過程です。睡眠と生活リズムを考慮した睡眠教育の普及について説明できるようにしてください。
13	個性の理解と発達支援① （第 3 部第 1 章 2 ）	子どもの臨床的問題へのアセスメントと介入効果について理解し、実施できるようになる。 **キーワード**：情緒障害、児童期の行為障害	発達とはその展開の内部に正負両面をあわせもちつつ進行する矛盾に満ちた過程であると認識することが必要です。発達が内包する矛盾に関するもう一つの視点は、通常＜良い＞と思われる能力はいつも＜良い＞行為として現れるわけではありません。他者の内面を理解することは、健常児か障がい児かを問わず社会化には重要な要素であることを理解してください。
14	個性の理解と発達支援② （第 1 部第 2 章 1 、コラム 6 ）	通常、発達障害のある子どもたちの発達上の困難さを通して、子ども達の個性の幅を理解する **キーワード**：自閉症スペクトラム	自閉症スペクトラムという概念は、これまでの発達障害も健常児も一直線状の量的問題で捉えようとしたものです。子どもの発達支援には、子どもの理解が前提として行われる必要から、子どもの個性についていろいろな側面から把握することができるようになってください。
15	子どもの権利としての子どもらしさ （第 3 部第 5 章 1 ）	子どもの権利としての子どもらしさについて理解を深め、子どもの権利を守る大人の役割について、説明できる。 **キーワード**：人権、子どもの権利、支援と教育	子どもにとっては、労働から解放され、学校に通い学習することが制度化されたこと、遊び等の子ども文化が生まれたことなどが現代の「児童期」を特徴づけています。しかし、禁止されたり強制される行動もあります。子どもは大人を乗り越えていく存在でもあります。このように子どもらしさの歴史的社会的性格と 2 面性とをふまえながら、子どもらしさの発達的意義について理解してください。

■在宅学習15のポイント（青年心理学＝教科書２）

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	青年期とは① （教科書２） １章１・４）	青年期という発達期の位置づけについて理解する。 **キーワード**：思春期、通過儀礼、モラトリアム、ライフイベント	他の発達期と青年期はどのような点で異なるのでしょう？ 特に青年期の前後の時期との「境目」をどう考えておけばよいのでしょうか？ まずは「青年期」という時期を大づかみにでも理解してください。
2	青年期とは② （１章２・３）	青年期の身体的・生理的側面について理解する。 **キーワード**：発達加速現象、生活習慣、第二次性徴	青年期ならではの身体的特徴、変化の特徴を踏まえたうえで、「身体の変化」が「こころの変化」と関連していることを理解してください。
3	青年期とは③ （１章５、４章１）	発達課題という概念を理解し、特に青年期の発達課題を明確にする。 **キーワード**：発達課題、進路選択	社会は青年期に相当する年齢の人間に対して何を求めているのでしょうか。社会がこの時期に対して何を課題とし設定するのか、何を達成した上で次の時期へと進んでいってほしいと考えているのかということは、「青年期の前後の時期との項目」について考える１回目のテーマとも関連しています。
4	青年期とは④ （１章７、５章１）	親子関係の変化から青年期の特徴を理解すると共に、「疾風怒涛」と表現される青年期の意味づけの是非について考える。 **キーワード**：心理的離乳、個性化、疾風怒涛、第二次反抗期	「反抗期」という言葉から青年期は「荒れる時期」と連想する向きもあるかもしれませんが、果たしてそうなのでしょうか？「荒れなければ青年期ではない」かのような言説は正しいのでしょうか？
5	アイデンティティ形成① （１章８・６）	エリクソンの提唱した「青年期の心理的危機」としての「アイデンティティ」概念と、マーシャの提唱した「アイデンティティ・ステイタス論」を理解する。 **キーワード**：自己概念、アイデンティティ、アイデンティティ・ステイタス	この回は特に重要です。青年期に対する代表的な言説としての「アイデンティティ」について十分に理解してください。また、自己概念というものが人間にとってどのように重要なのかということもここで理解してください。
6	アイデンティティ形成② （１章９、２章７）	自己のありよう、自己の捉え方が以下に心身の健康に影響するか理解する。 **キーワード**：自己評価、社会的比較、原因帰属	５回目「自己概念の重要性」の続きとなる部分です。アイデンティティには「自己の一貫性、統合性」が大きな要素となります。自己の捉え方という問題は、どのようなアイデンティティが形成されるかということへとつながっていきます。ボディイメージという事項は７回目へとつながる要素です。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
7	アイデンティティ形成③ （3章3、2章8）	摂食障害を例に、自己の捉え方と心身の健康状態の関連を理解する。 **キーワード**：摂食障害、メディア、メディア・リテラシー	青年期（の女性）に特に問題になりやすい摂食障害という問題に、自己概念という観点からはどのような説明ができるのかという点がポイントです。また、メディアの問題をとりあげることで、次回以降の事項である「青年期をとりまく他者、社会」の問題へとつながっていきます。
8	青年と社会との関係①（1章10、2章4）	青年期の友人関係、同年代関係の特徴を理解する。 **キーワード**：ギャング・エイジ、重要な他者、アイデンティティのための恋愛	4回目に「親子関係の変化」を取り上げましたが、では「親から離れた」後に誰とどういう対人関係を築いていくのか、その対人関係はアイデンティティの形成にどのように影響するのかといった点について理解してください。
9	青年と社会との関係②（2章1・3）	メールというコミュニケーションツールに焦点を当てた説明から、友人関係の維持・（再）構築の意義を考える。 **キーワード**：移行、（環境）適応、（対人関係の）希薄化	青年期では何度も環境移行が行われます。環境が変わり人間関係も変わる中で「環境適応の基盤のための人間関係」をどう築いていくのか、という点が1つのポイントです。次に、青年の対人関係が希薄化しているとの言説もありますが果たしてそうなのか、コミュニケーションツールという観点から考えてみてください。
10	青年と社会との関係③（3章4、5章6）	非行という現象に対して、特に「青年と社会の関係」に着目して説明を行っている理論の概要を理解する。 **キーワード**：学習、社会的絆、準備性	「非行」とはそもそもどんな現象なのか、なぜ非行を行うのかということについて「社会」という要因を重視した理論を学ぶことにより、8回目と9回目に学んだ「青年と社会との関係」の理解を深めてください。
11	青年と社会との関係④（3章5・6）	青年期に生じやすい問題行動を理解すると共に、問題をどのように捉えるかという視点を理解する。 **キーワード**：反社会的行動、非社会的行動、アンビバレント	7回目から10回目まで「裏テーマ」となっていたのが「青年期の問題行動」でした。それらの回で理解したことを改めて「問題行動」として整理し直し、併せて「対応」の際の留意点について理解してください。
12	青年期のキャリア発達① （4章4・8）	キャリア概念を理解し、キャリア発達の中での青年期の位置づけを理解する。 **キーワード**：ライフキャリア、役割間葛藤、（選択の）プロセス	この回も特に重要となります。3回目に「発達課題としての職業選択」を取り上げましたが、ここから最終回までは「キャリア選択」に焦点をあてて青年期及びアイデンティティ形成への理解を深めます。そのための基盤としてここで正しく「D. E. スーパーによるキャリアに関する言説」を理解してください。

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
13	青年期のキャリア発達② （４章５・９）	キャリア選択に必要な自己理解及び職業理解に関する青年期の特徴を理解する。 **キーワード**：マッチング、職業適合性、パーソナリティ・タイプ、職業認知	学校段階を終え社会人になるということは「青年期の終わり」を特徴づける重要な事項となります。次の進路を選ぶ際には自分及び社会を理解して選択の材料とすることが必要になりますが、これらの理解に関する問題点を理解してください。
14	青年期のキャリア発達③ （４章６・７）	「青年期を終える時点の問題」ではなく「青年期を通じての一貫した課題」としてのキャリア・職業選択のありようを理解する。 **キーワード**：（選択の）プロセス、意思決定、調査的決定	13回目に「選択の材料としての理解」をポイントとしましたが、理解した材料をどう扱うのか、どうやって材料を集めるのかということも大きなポイントとなります。青年期を通じてその課題に取り組み続けることの必要性を理解してください。
15	青年期のキャリア発達④ （４章10・12）	キャリア形成・選択のつまづきとその対応を理解する。 **キーワード**：自分探し、モラトリアム、やりたいこと志向、自己実現	必ずしも「フリーターは問題ある青年」ということではありませんが、12回目から14回目までの内容について「つまづきを示して」フリーターとなっている場合もあります。どんな点で選択プロセスが滞ってしまうのか、ある種のフリーター像を例に考えてみてください。

■レポート課題

1 単位め	児童期における知的機能の発達の特徴を述べなさい。
2 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。
3 単位め	**【説明型レポート】** 次の①～③の概念を、それぞれ400字以上600字以内で説明しなさい。 ①心理的離乳　②自己概念と自己評価　③モラトリアム
4 単位め	『客観式レポート集』記載の課題に解答してください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

（2015年度以前履修登録者）2016年４月よりレポート課題が変更になりました。『レポート課題集2015』記載の課題での提出は2017年９月で締め切りました。

（2017年度以前履修登録者）2018年４月よりレポート課題の２・４単位めが変更になりました。『レポート課題集2017』記載の課題でも2019年９月までは提出できますが、できるだけ新しい課題で提出してください。

■アドバイス

各課題について、テキストならびに関連参考書を読んで、丸写しにするのではなく、自分の言葉で、理解された内容をまとめるように心がけてください。その際、自分が大人になっていく道筋を振り返り、手

がかりとするのもいいでしょう。経験科学である心理学を学ぶことは、自分を含めて周囲の人や出来事を科学化することでもあります。

1単位めアドバイス

心身の急激な発達や発育が見られる乳幼児期に比べ、児童期は比較的安定した時期だと言われます。心身がゆるやかに成長する中でも、知的操作は自己中心性を脱して具体的操作段階へ、さらには形式的操作段階へと移行します。その過程で何をどう学び、どう発達して行くのか、ピアジェの理論を軸にして具体的に考えてください。

3単位めアドバイス

単に辞書的な定義を書くだけではなく、用語解説としてわかりやすくなるように気をつけてください。①〜③とも、テキストの該当部分のみではなく、他の事項も参照し、さらに参考文献などからも情報を取り入れて自分の言葉で記載してください。

2・4単位めアドバイス

教科書をよく読み、別紙の客観式レポート課題に解答してください。「TFUオンデマンド上で解答することも可能です。

科目修了試験

■評価基準

記号選択の設問においては正しい記号が選択されている場合のみ正答としています。

記述問題においては「①課題で問うている内容の理解」「②問いの形式に応じた回答の記述」という2点が評価ポイントであり、記述量はあくまで副次的な評価ポイントです（つまり、課題に直接関連しないことが多く述べられていたとしても評価されません）。